岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要　第11号(2001) pp.187～203

絵画の鑑賞教育実践における諸課題についての分析と考察

種　倉　紀　昭*・小　松　則　也**

(2001年1月9日受理)

Noriaki TANEKURA　Noriya KOMASTU

Analysis and Study on the Problems in Practice of Teaching Appreciation of Paintings by Masters

序

美術における鑑賞教育を論ずるときに，これが三つの複合的な関係での論となることを先ず考慮しなければならない。一つは，美術作品あるいは教材としての複製・図像等と鑑賞者（享受者）との間に生起する美学的な作品享受の関係である。もう一つは，教師が鑑賞者である児童・生徒・学生の作品享受や作品解釈の媒介者となるという，作品・作者，教師，児童・生徒・学生の間の美術教育学的関係である。さらに一つは，美的経験の認知発達段階をめぐっての教師と子ども，学生との関係である。以上の三者は美術教育の前提である人間形成と美的能力の発達に関わっている。

今年度，小松が県立高等学校（盛岡第一，紫波）の２校の高校生54名と「美術概論」受講学生110名の計164名を対象に行なった「名画鑑賞アンケート」での結果と，種倉が担当した「美術概論」の名画鑑賞授業実践での学生の反応を踏まえて，学校や大学での絵画鑑賞教育の実践上の現代的諸課題と青年期の鑑賞態度・能力の特徴を分析・研究し論ずるとともに，指導法・教授法の改善について考察した。なお，序，２章，結論を種倉が，１章を小松が主として分担執筆した。

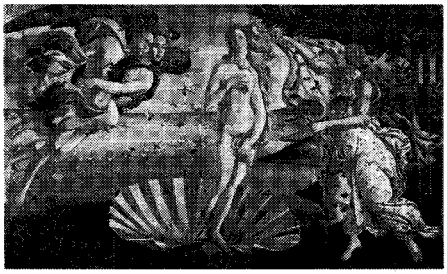
１．大学生・高校生が名画鑑賞アンケートに示す鑑賞能力と鑑賞態度の傾向について

序に述べたように，今年度前期，小松が県立高等学校（盛岡第一，紫波）の２校の高校１年生54名と「美術概論」受講の２・３年次学生110名の計164名を対象に「名画鑑賞アンケート」を行なった。目的は，高校生，大学生の鑑賞能力，鑑賞態度の傾向，名画の嗜好性の傾向，絵画表現に対する考え方を調査し，分析することによって鑑賞指導の在り方の

＊　岩手大学教育学部

＊＊　岩手大学大学院教育学研究科教科教育専攻美術教育専修

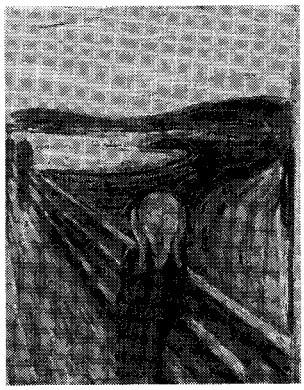
参考にすることである。以下，線内は実施した名画鑑賞アンケート（無記名，制作．実施者・集計者小松則也）の内容である。絵の図版は，カラーとモノクロームの複製画資料で配布（事後に回収）されたが，いずれも人物を描いたもので，次の通りであった。A．ボッティチェリ『ヴィーナスの誕生』（テンペラ，フィレンツェ，ウフィッツ美術館，1485［図版1］），B．フェルメール『牛乳を注ぐ召使』（油彩，アムステルダム，国立美術館，1658［図版2］），C．モネ『散歩，日傘をさす女』（油彩，ワシントン，ナショナル・ギャラリー，1875［図版3］），D．ムンク『叫び』（テンペラ，オスロー，国立美術館，1893［図版4］），E．ピカソ『マリー・テレーズの肖像』（油彩，パリ，ピカソ美術館，1937［図版5］），F．松本竣介1943『水を飲む子ども』（油彩，岩手県教育委員会文化課美術館設置準備室，1943頃［図版6］）の6枚であった。



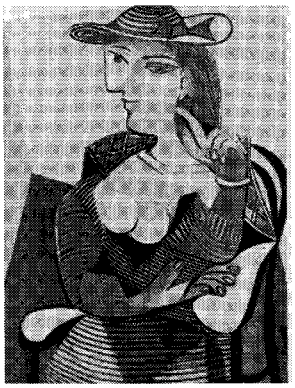
〔図版1〕ボッティチェリ　一四八五年「ヴィーナスの誕生」

〔図版2〕フェルメール　一六五八年「牛乳を注ぐ召使い」

〔図版3〕モネ　一八七五年「散歩：日傘をさす女」



〔図版4〕ムンク　一八九三年「叫び」



〔図版5〕ピカソ　一九三七年「マリーテレーズの肖像」

〔図版6〕松本峻介　一九四三年「水を飲む子ども」

［鑑賞に関する意識アンケート］

実施日　2000年　月　日　　学年年齢（　，　　才）　男・女

このアンケートは，はば広く鑑賞に関する意識を調べるためのものです。「絵」から見えてくるもの，「絵」から受ける印象を大切にお答え下さい。

①立体的に描かれていると思う絵はどれですか。（複数可：　　）

②平面的に描かれていると思う絵はどれですか。（複数可：　　）

③光と影の効果によって，空気を感じさせる絵はどれですか。（　　）

④希望あるいは幸福に満ちた感じがする絵はどれですか。（　　）

⑤絶望あるいは孤独を感じさせる絵はどれですか。（　　）

⑥登場人物の心情がよく伝わる絵はどれですか。（　　）

⑦一番嫌いな絵はどれですか。（　　）

⑧一番好きな絵はどれですか。（　　）

⑨一番好きな絵について，なぜ好きなのか。その理由を「感じたこと，考えたこと（共感，自己発見）」の視点からくわしく書いてください。《以下，6行分記入欄》

⑩あなたにとって，よい絵の条件は何ですか。一つ選んでください。（　　）

ア．描き残しなどがなくていねいであること。

イ．写真のように正確に描かれていること。

ウ．形が整っていて色あざやかであること。

エ．伝えたい事がらが明確であること。

オ．ここちよさを与えてくれる表現であること。

ご協力ありがとうございました。

岩手大学教育学研究科教科教育専攻美術教育専修　小松則也

(1) 各設問に対する多数者回答について

以下に述べるのは，164名のアンケートへの回答に対する集計による分析である（［表1］～［表7］参照）。

［表1］では例えば質問①をQ1のように表示し，Q1の選択絵画の多数順位を①，②のように表している。［表1］に添って一位を挙げる。①（Q1）「立体的に描かれていると思う絵」はBのフェルメール，②（Q2）「平面的に描かれていると思う絵」はEのピカソ，③（Q3）「光と影の効果によって，空気を感じさせる絵」はCのモネ，④（Q4）「希望あるいは幸福に満ちた感じの絵」はAのボッティチェリ，⑤（Q5）「絶望あるいは孤独を感じさせる絵」はDのムンク，⑥（Q6）「登場人物の心情がよく伝わる絵」は，同様にDのムンク，⑦（Q7）「一番嫌いな絵」は，Fの松本竣介である（［表1］には示していないが内訳では高校 生の43.8%，大学生中の36.2%が「一番嫌いな絵」にあげている）。⑧（Q8）「一番好きな絵」は，Cのモネであり，⑨（Q9）「一番好きな絵について，なぜ好きなのか。その理由」については数値化できないので後述する。⑩（Q10）「あなたにとって，よい絵の条件は何 か」（［表2］参照）では，オ「ここちよさを与えてくれる表現で

あること」が一位であった。

［表1］で二位を挙げると，①（Q1）「立体的」はAのボッティチェリ，②（Q2）「平面的」はFの松本竣介，67名。③（Q3）「光と影の効果，空気」はBのフェルメール，④（Q4）「希望あるいは幸福」はCのモネ，⑤（Q5）「絶望あるいは孤独」は松本竣介，⑥（Q6）「登場人物の心情」はBのフェルメール，⑦（Q7）「一番嫌いな絵」は，Eのピカソ，⑧（Q8）「一番好きな絵」は，Bのフェルメールであった。

(2) 作品ごとの回答の特徴について

以下，画家とその作品に添って，アンケート結果を分析する。

A．ボッティチェリ『ヴィーナスの誕生』　『ヴィーナスの誕生』は，④（Q4）の「希望あるいは幸福に満ちた感じ」の一位であるが，⑧（Q8）「一番好きな絵」では，わずかに全体で9名，5.3%の得票しかなかった。（高校生2名，3.6%，大学生7名，6.2%）回答者の多くは，好みかどうかと問われると，神話に基づく絵画は現実感がないという理由で敬遠し，距離をおいて鑑賞していると思われる。ユングのタイプ説に基づくH．リードの分類1)を援用すれば，内向感情（feeling）型である。

B．フェルメール『牛乳を注ぐ召使い』　前述のように「最も好きな絵」の二位となったが，40名の選択理由では，「日常的な風景の一場面を描いていて落ち着く」，「平凡な空気が流れていて安心感がある」，「やわらかく優しい感じがする」，「光と影のバランスが取れていて違和感を感じさせない」，「自然に近い色がいい」等々，何気ない日常の生活を肯定的に捉えた回答が多い。構図，明暗，色彩に関して客観的な理由を挙げる例が多数見られた。フェルメールの絵が誰の眼にも超一級の絵であることを示していると思われる。リードの分類を援用すれば，内向思考（thinkng）型である。

C．モネ『散歩，日傘をさす女』　リードの分類を援用すれば，この絵は内向思考型である。また，特筆すべきことは，57.4%（高校生の56.4%，大学生の57.1%）が「一番好きな絵」に選んでいることである。二位のフェルメールの絵が23.9%であるから，その人気の高さは2倍以上で圧倒的である。その「選んだ理由」を拾い上げてみる。

［大学生］

・「一番きれいで部屋に飾りたいから。この絵は実家の居間にカレンダーとなって飾られている。その解説によれば，この絵は，モネの妻と子供なのだそうで，ふとモネが呼び止めて振り返ったところなのだそうだ。その家族的な幸福感を美しく表しているのがステキだと思う。何の先入観もなく見たらまた違ったかもしれない。」

・「暖かい風や陽差しを感じた。普通のいつもと変わらない初夏の日曜日を想像した。」

・「青い空と草の緑がとてもさわやかに感じた。太陽の光があたっていると私も自然に気持が優しくなれるので，この絵が一番好きだ。また，子供もいっしょにいるのでなんだかほほえましい。」

・「優しい感じが絵から伝わってくる。自分の好みが使われている。空が印象的，太陽の光と雲の動きが見えるよう。全体的のきれいな感じがするのが好きである。」

・「夏のさわやかな情景が伝わってくる。空気（感）を感じる。」

・「きれいな絵だと思う。点描を使ってあたたかい感じを出している。風に吹かれている感じで見ていて気持がいい。下から見上げている感じも描画効果を引き立てている。」

・「モネは対象物を正確に写し取っている訳ではない。それが見ている私の想像をかき立てる。例えば，日傘をさしている女性が悲しい顔をしているのか，ほほ笑んでいるのかなど。しかし，この絵から強く感じるのはとても気持が穏やかになるということである。空気がよく澄んでいるように感じる。だから，私は，この絵が好きなのだと思う。」

［高校生］

・「空の青や草の緑がとても美しく，明るい感じがするから。また，二人の間の距離から何かストーリーを感じるから。」
・「明るくさわやかな感じがして，こっちもいい気分になれるから。青空がとってもきれいでいい。」
・「草の色がそれぞれ違っている。服の形が繊細だ。」
・「今にも動きだしそうでおもしろい。個人的にこういう場所が好きだから。」
・「色がきれいで幸せそうだから。立体的でぱっと見ていい感じ。」

以上の理由の特徴を見ると，自然（光，風，草，空気）と色彩に関して良いイメージとして印象的に捉えている。前述のように，（Q3）③「光と影の効果によって，空気を感じさせる絵」でもモネのこの絵が56.5%で，一位であった。［気持が穏やかになる］，「心がなごむ」，「心地好い」等の理由も多い。その他，「女の人の顔がぼやけているところが想像をかき立ててかえってよい」，「親子の関係が　ほほえましい」，「まるで自分がそこにいるかのような感じがする」，「今にも動き出しそう」等の理由は感情移入的鑑賞法での記述であり，「下から見上げている感じがいい」等は，構図や表現効果についての記述であり，モネの伝達意図・工夫を鑑賞者が充分に受け留めているようにも思われる。一般的に，造形上では色彩がきれいで，明るく，さわやかで，情景が日常生活から遊離せず家族的で落ち着いた感じの，感情移入や想像力の発揮が容易で，自然の爽快さを伴った絵画が好まれる傾向にあることが分かった。

D．ムンク『叫び』　　リードの分類を援用すれば，この絵は内向感覚型である。

前述のように，二つの項目で一位を獲得している。⑤「絶望あるいは孤独を感じさせる絵」，⑥「登場人物の心情がよく伝わる絵」である。しかし，⑦「一番嫌いな絵」でピカソと僅差の三位（33.4%）でもある。暗いイメージの絵は，モネ『散歩，日傘をさす女』の対極にあり，好まれないことが分かった。しかし，注目したいのはこの絵が⑧「一番好きな絵」で9名（5.5%）居たということである。その理由を以下に挙げる。

［大学生」

・「人だけ見ると絶望感が伝わってくるが，全体的に見るとそうでもない。曖昧さがいい」，「叫びたくても叫べない僕にとってはうらやましい」，「今自分がそういう気持ちだから」等が挙がっていた。9名の内訳は，高校生が7名，大学生2名，全員が男性であった。⑩「あなたにとって，よい絵の条件は何か」では，エ「伝えたい事柄が明確であること」を挙げている人が22.1%（37名）居た。このことから見れば，『叫び』を「好きではないが，良い絵の条件を備えている」と考える人が2割程度居る可能性を示している。

E．ピカソ『マリー・テレーズの肖像』　　リードの分類を援用すれば，この絵は内向直覚型である。アンケートによれば，②「平面的に描かれていると思う絵」で一位，⑦「一番嫌いな絵」での二位の結果は前述の通りであるが，⑧「一番好きな絵」で得票はわずか

でも三位，6.0%で10名（9名が大学生）が居たことにも注目する必要がある。「理由」を以下に示す。

・「直感的に色使いが好きである。しかし，不思議な絵なので何を感じたかと言われると難しい。」
・「ピカソの絵はどれも独特の雰囲気を持っている。絵の女性は前を見ているのか横を見ているのか，どちらとも取れる。そのようにおかしなところがいい。」
・「描かれている女性がA，B，Cの女性より美しいと感じるから，手の表情も豊かに見える。」
・「色のセンスとかが，やっぱり良いとしか言えない。」
・「横顔は落ちついた雰囲気を持った女性であるが，正面の顔はしたたかでおごり高ぶった姿にも見える。しかし，二つの顔は一つにもなり，それは何かを内に秘めた女性の顔に見える。人間の多面性を風刺したようでおもしろい。」
・「明るい色を使っているのがとてもいい感じ。実際に描くものを一度こわす描き方は，少々理解しがたい。しかし，女性の目，左はやさしく右は色っぽい様子がとても印象的だったから。」

不思議で，おかしなところ，人間の多様性を風刺したようで面白い，色のセンスが好きなど直観的な判断が多い。殆どが生活感情や感情移入による判断とは異なる判断である。「一番嫌いな絵」で二位である理由を推測すると，描かれている絵が立体派の理屈抜きには，また，狭義の美に拘る限りは理解できないからであろう。

松本竣介『水を飲む子ども』　この絵について，アンケートで特筆すべきことは，⑦（Q7）「嫌いな絵」のトップ（39.5%，65名）に，かつ，⑧（Q8）「好きな絵」の最下位（1.8%，3名）に挙げられていることである。「嫌いな絵」の内訳を見ると大学生の36.2%，40名，高校生の48.3%，25名でパーセンテージは高校生の方が高い。岩手県立美術館設置準備室の収蔵作品で，これまでも盛岡で見学の機会がありながらも彼の実物を見た経験がないことを伺わせる。アンケートでの他の絵に比べて唯一の日本の画家の作品であり，日常の明るい快適さを表現している作品でないこと，画面の色彩を抑えた画面の暗さ，時代背景を伴った心象的な暗さが嫌われた理由であろうと推測される。また，②（Q2）「平面的に描かれている絵」の二位（24.3%）である。三位のD，ムンク（21.0%）と僅差であるが，細部の明暗のグラデーションまで注意が行き届かずに絵画全体から受ける第一印象から平面的に感じたと思われる。この絵を⑧（Q8）「好きな絵」とした3名の「好きな理由」を以下に記す。

［大学生］
・「子供のまなざし，首のかしげ具合，手の組み方に子供特有のあどけなさが感じられ，心が和らぐから。タッチは暗いがじめじめした暗さではなく，落ち着いた世界を感じる。
・「目が寂しそうな感じがして，心がひかれてしまった。」
［高校生］
・「自分の気持の中にすうっと入ってくる感じがするから。今の気持と同じ雰囲気だから。」

(3) 各設問に対する回答と選択した絵画との相互の関係について

各設問に対する回答と選択した絵画との相互関係から見えてくる事項について述べる。

⑩（Q10）「あなたにとって，よい絵の条件とは・・・」のアンケート結果について，［表４］を見ると，一位が「オ．ここちよさを与えてくれる表現であること」で67.0%，111名で圧倒的である。二位は「エ．伝えたいことが，明確であること」で22.0%，36名で一・二位の合計で89.0 %，113名が占める。

名画鑑賞アンケートの結果から見出だされたことを，再度，質問事項毎に多数傾向について箇条書きに述べてみよう（［表１］～［表７］参照）。

①（Q1）「写実的に描かれた作品は立体的である」と捉えていると思われる。しかし，一位のフェルメールの絵は明暗の強調と省略があり，後述③（Q3）「空気を感じさせる作品」でも二位であり，単なる立体感のみの絵ではないことを３割の人は捉えている。

②（Q2）多面的な角度から同時共存的に描かれたピカソの絵を「平面的」と捉えている。

③（Q3）「空気を感じさせる作品」としてモネ，フェルメールが多かった。

④（Q4）「誕生」，「散歩」という主題が「希望，幸福」であるという認識を持っている。しかし，後述の⑦（Q7）の結果で明らかなように，絵解き（図像解釈）を必要とする種類のボッティチェリの絵を敬遠する傾向がある。

⑤（Q5）顔の表情や動作，手をじっと見つめるしぐさからムンクの「叫び」，竣介の「水を飲む子ども」に「孤独感，絶望感」を感じとっている。

⑥（Q6）作者の表現意図と作品に登場する人物の心情は必ずしも一致しているとは限らない，むしろ違っていても当然であるが，作品の中の人物の心情を描写方法から推察することは，鑑賞の上において興味深い要素であると考える。大変分かり易いその動作，描き方により「登場人物の心情がよく伝わる作品」として多数がムンクの「叫び」を選んでいる。

⑦（Q7）「孤独感，絶望感」をストレートに感じる絵や，絵解き（図像解釈）の必要な物語性の強い絵，造形的解釈を必要とする種類の近代の絵を嫌う傾向がある。

⑧（Q8）および⑨（Q9）日常的感覚や生活感に照らして，感情移入の容易な，身近で心地良さを与えてくれる絵を好む傾向がある。

⑩（Q10）「よい絵の条件」の設問を「あなたにとって」と規定したところに，回答者の回答の迷いを招いたことは否めない。しかし，⑦（Q7），⑧（Q8），⑨（Q9）の回答に関わって，「よい絵の条件」（［表４］～［表６］参照）は心地良さを与えてくれることであると７割弱が捉え，伝達内容が明確であることであると2割強が捉えている。

選択した各設問の回答としてどの絵が高校生の，また大学生の何パーセントに，また全体総計の何パーセントの人々によって選択されたかを「表１」～「表３」で示した。さらに，［表７］のＡ～Ｆで，回答者の絵の好みと「よい絵の条件」の考え方との関係を表にまとめた。この表から明らかなことは，以下のことである。

モネの絵を一番好きな絵とした回答者は，「よい絵の条件」を心地良さを与えてくれることであると捉え，竣介，ピカソの絵の順に嫌う傾向が強く，次いでムンク，ボッティチェリの絵の順に嫌いである。ボッティチェリ，フェルメール，ムンク，竣介の絵を一番好きな絵とした回答者は一名も，モネの絵を嫌いではない。ムンクの絵を一番好きな絵とした回答者はピカソ，竣介の絵の順に嫌う傾向が強い。ピカソの絵を一番好きな絵とした回

答者は一名もムンクの絵を嫌いではないが，半数以上が竣介の絵を嫌う傾向があり，答者員の内のモネの絵を嫌う一名が居る。竣介の絵を一番好きな絵とした回答者はボッティチェリ，ムンクの絵が嫌いである。

一番好きな名画を選ぶ項目での全体での集計結果は，6割以上の好みがモネ「散歩，日傘の女」に集中し，印象派，バロック的写実絵画が好まれ，それから遠ざかって時代がルネッサンスの物語性や近代の造形性が強まるにつれて人気が減じてくる傾向が見られた。

［表1］　名画鑑賞アンケート集計結果・各質問に対する回答の選択絵画のパーセンテージと順位（全体）

	A％（人数）	B％（人数）	C％（人数）	D％（人数）	E％（人数）	F％（人数）	分母人数
Q1	②23.6 (81)	①42.6(146)	③16.6 (57)	⑥ 5.5 (19)	④ 8.7 (30)	⑤ 3.0 (10)	342(延数)
Q2	④ 8.0 (22)	⑥ 1.1 (3)	⑤ 5.4 (15)	③21.0 (58)	①40.2(111)	②24.3 (67)	276(延数)
Q3	④ 3.0 (5)	②35.0 (57)	①56.0 (92)	③ 3.7 (6)	⑥ 0.6 (1)	⑤ 1.7 (3)	164
Q4	①55.5 (91)	④ 2.4 (4)	②35.4 (58)	⑤ 0.6 (1)	③ 5.5 (9)	⑤ 0.6 (1)	164
Q5	④ 1.2 (2)	③ 2.4 (4)	⑤ 0 (0)	①62.2(102)	⑤ 0 (0)	②34.2 (56)	164
Q6	⑤ 2.4 (4)	②35.0 (57)	④ 8.5 (14)	①54.3 (89)	⑥ 1.8 (3)	③15.9 (26)	164
Q7	⑤ 9.1 (15)	④ 2.4 (4)	⑥ 0.6 (1)	③14.0 (23)	②34.0 (56)	①39.5 (65)	164
Q8	④ 5.5 (9)	②23.2 (38)	①57.9 (95)	④ 5.5 (9)	③ 6.1 (10)	⑧ 1.8 (3)	164

注：
1）2000年6月実施，岩手県立高校生54（美術選択生，男32，女22）名，岩手大学教育学部小学校課程・中学校課程生110（男35，女75）名，計164（男67，女97）名。
2）分母人数（延数）は複数の絵画を選択しての回答があったため示した。
3）①，②...は順位，数字はパーセンテージ，括弧内数字は人数。

［表2］　各質問に対する回答（高校生54名）の選択絵画のパーセンテージと順位

	A％（人数）	B％（人数）	C％（人数）	D％（人数）	E％（人数）	F％（人数）	分母人数(延数)
Q1	③20.4 (25)	①40.9 (50)	②22.4 (47)	④ 6.5 (8)	⑤ 4.9 (6)	⑤ 4.9 (6)	122
Q2	③12.7 (12)	⑥ 0 (0)	⑤ 3.1 (3)	④18.0 (17)	①43.6 (41)	②23.0 (21)	74
Q3	③ 5.4 (3)	②40.0 (22)	①51.0 (28)	④ 1.8 (1)	⑥ 0 (0)	④ 1.8 (1)	55
Q4	①53.7 (29)	④ 1.8 (1)	②33.5 (18)	④ 1.8 (1)	③ 7.4 (4)	④ 1.8 (1)	54
Q5	④ 3.7 (2)	③ 3.5 (3)	⑤ 0 (0)	② 3.8 (22)	⑤ 0 (0)	①55.0 (33)	60
Q6	⑤ 0 (0)	③20.3 (11)	④ 5.5 (3)	①46.5 (25)	④ 5.5 (3)	②22.2 (12)	60
Q7	④ 7.2 (4)	⑤ 5.4 (3)	⑥ 0 (0)	③10.9 (6)	②32.7 (18)	①43.8 (24)	55
Q8	⑥ 3.7 (2)	②24.1 (13)	①57.4 (31)	③11.1 (6)	⑤ 1.9 (1)	⑤ 1.9 (1)	54

［表３］各質問に対する回答（大学生110名）の選択絵画のパーセンテージと順位（大学生）

	A％（人数）	B％（人数）	C％（人数）	D％（人数）	E％（人数）	F％（人数）	分母人数(延数)
Q１	③20.4 (25)	①40.9 (50)	②22.4 (47)	④ 6.5 (8)	⑤ 4.9 (6)	⑤ 4.9 (6)	122
Q１	②25.0 (56)	①43.4 (96)	③13.5 (30)	⑤ 4.9 (11)	④10.8 (24)	⑥ 1.8 (4)	221
Q２	⑤ 5.7 (10)	⑥ 1.6 (3)	④ 6.6 (12)	③22.6 (41)	①38.1 (69)	②25.4 (46)	181
Q３	④ 1.7 (2)	②32.6 (37)	①58.9 (67)	③ 4.3 (5)	⑥ 0.8 (1)	④ 1.7 (2)	114
Q４	①56.8 (64)	④ 2.6 (3)	②36.2 (41)	⑤ 0 (0)	③ 4.4 (5)	⑤ 0 (0)	113
Q５	④ 0 (0)	③ 0.8 (1)	④ 0 (0)	①76.0 (85)	④ 0 (0)	②34.2 (56)	112
Q６	⑤ 3.5 (4)	②15.0 (17)	④ 9.7 (11)	①58.6 (66)	⑥ 0 (0)	③13.2 (15)	113
Q７	⑤10.0 (11)	⑤ 0.9 (1)	⑤ 0.9 (1)	③15.4 (17)	②34.5 (38)	①38.3 (42)	110
Q８	④ 6.4 (7)	②22.7 (25)	①58.0 (64)	⑤ 2.7 (3)	③ 8.2 (9)	⑧ 1.8 (2)	110

［表４］Q10：「よい絵の条件」の回答選択肢のパーセンテージと順位（全体）

よい絵の条件	％（人数）	順位
ア．かき残しがなくていねいであること	1.2(2)	5
イ．写真のように正確に描かれていること	4.9(8)	3
ウ．形が整っていて鮮やかであること	4.3(7)	4
エ．伝えたいことが明確であること	22.0(36)	2
オ．ここちよさを与えてくれる表現であること	67.0(110)	1
該当なし	0.6(1)	6

注：アンケート対象者と人数(164名)は表１と同じ。

［表５］Q10：「よい絵の条件」の回答選択肢のパーセンテージと順位（高校生54名）

よい絵の条件	％（人数）	順位
ア．かき残しがなくていねいであること	3.5(2)	5
イ．写真のように正確に描かれていること	5.3(3)	3
ウ．形が整っていて鮮やかであること	5.3(3)	3
エ．伝えたいことが明確であること	35.7(20)	1
オ．ここちよさを与えてくれる表現であること	50.2(28)	2
該当なし	0.6(1)	6

［表６］Q10：「よい絵の条件」の回答選択肢のパーセンテージと順位（大学生110名）

よい絵の条件	％（人数）	順位
ア．かき残しがなくていねいであること	0(0)	6
イ．写真のように正確に描かれていること	4.5(5)	3
ウ．形が整っていて鮮やかであること	5.6(4)	4
エ．伝えたいことが明確であること	15.4(17)	2
オ．ここちよさを与えてくれる表現であること	75.6(84)	1
該当なし	0.9(1)	5

表7　絵の好みとよい絵の条件との関係

A．一番好きな絵がAの回答者（計9名）

	一番嫌いな絵					よい絵の条件					計
	B					イ					1
		D						エ			1
		D								オ	1
			E							オ	2
			E					エ			1
				F				エ			2
				F						オ	1
延計	1	2	2	3		1		3	4		9

B．一番好きな絵がBの回答者（計38名）

	一番嫌いな絵				よい絵の条件				計
	A							オ	2
		D			イ				1
		D				ウ			2
		D						オ	2
			E		イ				1
			E			ウ			1
			E				エ		6
			E					オ	7
				F	イ				1
				F		ウ			1
				F			エ		5
				F				オ	9
延計	2	5	15	16	3	4	11	20	38

C．一番好きな絵がCの回答者（計95名）

	一番嫌いな絵					よい絵の条件					計
	A								エ		3
	A									オ	7
		B								オ	2
			D					ウ			1
			D						エ		2
			D							オ	12
				E		ア					1
				E			イ				2
				E					エ		3
				E						オ	22
					F	ア					1
					F		イ				1
					F			ウ			2
					F				エ		6
					F					オ	30
延計	10	2	15	28	40	2	3	3	14	73	95

D．一番好きな絵がDの回答者（計9名）

	一番嫌いな絵			よい絵の条件			計
	E			エ			5
		F		エ			3
		F			オ		1
延計	5	4		8	1		9

E．一番好きな絵がEの回答者（計10名）

	一番嫌いな絵				よい絵の条件					計
	A							オ		2
		B							なし	1
			C				エ			1
				F	イ					1
				F				オ		5
延計	2	1	1	6	1	1	7	1		10

F．番好きな絵がFの回答者（計10名）

	一番嫌いな絵		よい絵の条件		計
	A		オ		2
		D	オ		1
延計	1	1	3		3

2．教員養成における学生の絵画鑑賞態度の問題点・課題について

(1) 絵画鑑賞授業学生の感想とその分析

岩手大学教育学部で種倉が今年度実施した絵画鑑賞に関わる授業・講義における学生の絵画鑑賞の態度例とその問題点・課題についてはじめに述べる。

小学校図画工作に関わる教科専門科目の「美術概論」(小学校課程生が中心の3・4年生)に，慣例上，出席カード提出を求めた。出席カードはB5版の半分の大きさで，所属・番号・氏名の下に3分の2程度の授業の概要，受講の感想等を記すスペースがある。近年になる程，ノートやメモを取らない傾向が増えている。そのため，具体的な事例を挙げずに感想・意見を記す学生が多くなっている。また，美術史的な最低限の教養を中学校・高等学校段階で身につけていない学生も見られる。伝達表現力，漢字学力，言語リテラシー能力や論理的文章の表現能力の低下を示す少数者が全体的に増加している傾向が見られる。学生による授業評価アンケートではないので，回答を項目別等にして数を集計することができにくい。それで，「美術概論」に実例をとり内容別にアトランダムに回答の抜粋をして鑑賞授業の問題点を論じてみよう。

① 絵画史の知識の多寡について　流派名や画家名の知悉に個人差がある。採り上げた画家の代表作が何であるか，初めて耳にする画家や流派を眼にして，「自分の気に入った作家の作品のスライドをもっと多く観たい。丁寧な解説を聞きたい。代表作を示して欲しい。」等の感想があった。

自分の気に入った作品を美術館や展覧会場で充分な時間を掛けて観たいと云う想いがある。こうした想いは，作品鑑賞（享受）の際に誰しもが持つ気持であるが，授業の時間にはスライド，複製画，ビデオ放映，作品コピー印刷物等に依る限られた方法で行なうしかない。フォーヴィスム，キュビスムは学生にとって常識と思えたが，画家や流派を知らない学生が多い。作品を多く見ることによって特徴を認識してもらう試みは成功しなかった。補習授業も含めて授業方法を改善する必要があるといえる。

② 絵画の真贋・価格について　7月19日レンブラントの贋作・真作をテーマにしたNHKのビデオを見せたところ，「絵の価格は誰が決めるのでしょうか？」という価格への質問が寄せられた。絵の評価額，価格は芸術的価値のみでなく，商品としての需要と供給の市場関係の場で決まる場合が多いことを次の週に説明した。生前1点しか売れなかったヴィンセント・ファン・ゴッホの場合も歿後には彼に無関係な市場でオークション，落札が高価格で行なわれ続けている。むしろ，作品享受にとって評価額は重要事項ではない。むしろ芸術的価値に関心を向けさせる必要がある。

他に，「科学的手段を用いて絵画の真贋を決めることに何の意味があるのでしょうか？」という真贋の（板の年輪年代測定法やX線による分析等）科学的分析鑑定への疑問，また，「贋作でもその人が名画と思えば真作だと思う。」という暴論や，「絵画の真贋を調べるのに多くの経費を使って何の意味があるのでしょうか？」という文化予算軽視の感想があった。以上を見ると，鑑賞能力が初期段階であるための，認識不足であると云っても過言ではない。その他，授業に直接関連のない，基本的な美術史的教養の欠如を臆面もなく露呈する次のような記述もあった。

・「レンブラントの作品は何かで見たことがある。かなり以前の話なので，もしかすると　あれは贋作だったのかも知れないが。だが，作品を見た時は，最初に写真かと思った。だがよく見ると絵筆の跡が見えたので絵画だということがわかった。そしてレンブラントという人物が最近の人ではなく，300年も昔の人物であると知って二度驚いた。」

勿論，画家の作風と時代を正しく記憶し，周辺の類似画家の存在を知り，美術史の基礎知識を獲得することは，作品享受にとって基本的で重要な事項である。

③　再現性と造形性との違いの学習について　　コローの風景画の持つ造形性について解説することを中心に，再現性と造形性の違いについて講義を行なった。

6月28日の美術概論の講義でコロー（Camille Corot 1796-1875　フランス）「マントの橋」（ルーヴル美術館 1868-70，油彩・画布［図版7］）の銀灰色のグリザイユ的表現の特徴をカラースライドで映写し，また，並行してこの絵のカラーコピーを配布し，ＯＨＰでを映写して，裏返した画像（［図版8］）をスライドでスクリーンに映写し，元の画像と比較させ，構成的な左と右のバランスや印象の違いに気付かせた。次に挙げるのは，その時の学生の記述である。

・「絵画では，“何が描かれているか”ということよりも，構図など造形のほうが重要だということで，コローの『マントの橋』なども左右逆にしただけで大きな違和感を感じました。また，絵画を“わかる”ということは，理解することと共感することがあるということでしたが，どちらも難しく，奥の深いものだと思いました。」

・「小学校の図工の時間，初めて土の色をあい色でぬったのは4･5年生のときだった。土の色は茶色と思っていたので私にとっては驚きだったのを覚えている。先生は『見たままの色にこだわらなくてもいいんだよ。』と言った。今日の授業で感じたこと，それは，本物の色とは違う色を使うというのは，その色が自分が描く絵にマッチするのか効果をもたらすのかを考える必要があると思った。絵を逆さにしたり左右逆にして見たりするときになぜか違和感を持ったのが不思議だと思った。」

・「この講義では，芸術家の生涯をたどったり絵の感じを「～的」と言葉であらわすことが多かった。今日は，コローの『マントの橋』などを，あえて言葉にせず感覚で味わうように神経を集中させた。絵画とは，そこにあるものをただ写真のようにうつし取ったものではない。明暗の操作や構図のとり方によって，作者の中で再構築されておいるのだと実感した。スライドによって，上下や左右反対に絵を見ると，そのことがより分かりやすく伝わった。」

〔図版7〕
コロー『マントの橋』原図（1868-70）

〔図版8〕
コロー『マントの橋』　裏返し

多くの学生の授業後の感想には，コローの絵から造形性を読み取るこの授業の意図を理解したことが分かった。反省すべき点として，学生に対する発問と解説の用語的な不備があった。「この絵を上下半分に分割した場合に上半分と下半分のどちらが重いと感ずるか？」の発問と応答を講義中に行なったが，発問は「どちらが明度対比が強く表されていると感ずるか？」とすべきであった。発問の不適さが授業中の学生の反応との齟齬を生んだ。

また，多くの学生と異なり，「元の絵を知らなければ裏返し像の不自然さに（誰も）気付かないだろう。」，「コローの風景画について解説をいくら聞いても，私にはコローが見たとおりに風景を描いたとしか見えない。」という，作品享受能力と感受性において段階的に進んでいない学生，講義での解説を受け付けない学生の感想が一部に見られた。

次の週の7月5日の講義では，さらに，明暗と構図の特徴を分析するために，この絵をモノクロームで濃くコピーしたもの（[図版9]）を含む明暗の資料，さらに普通焼きのコピーを白サインペンで上下と右左に4分割し対角線を描き加えた線入れ図（[図版10]）を用意した。以上3枚のコピーをA3版1枚の配布資料にまとめ，配布した。コローの絵画デザインはどのような点で優れているのかを線入れ図で読み取らせ，暗くコピーした明暗資料を示して，構図や明暗のコントラストの工夫があること，銀灰色のグリザイユ的表現の特徴があること，形態描写に強調と省略があることを解説した。コローの「青衣の女」の明暗資料（[図11版]）等の解説を行なった。

④　分かり易い授業について　　7月5日の「今まで気付かないでいたことに今回気付かせられ，それを理解した」という感想（53名）のうちの数例を以下に挙げる。

・「『絵を描く』と聞くとただ表現するのだというイメージが今日の授業で自分を表現するのだということを知った。配布されたプリントでは，先週のカラーと違って明暗の違いがはっきりした3パターンが一度に比較でき，前回，先生がおっしゃっていた明暗の対比が少しでも理解できたように思える。」

・「先週の『重さ』というものの意味がわからなかったが，色調とかではなく，明暗の対比や調和であると聞いてコローの絵の上半分，下半分の重さがどうかということがわかった。コローの絵が見た通りに描いているようだけど，そうじゃないところとかが，すごい深いと感じた。」

・「絵を描くとき，省略をすることにより中心となる事象が浮き出るということが感じられた。実際見たものを再構成することによりその人だけしか描けない絵となることがわかった。」

・「いろんな見方があると感じた。いろんな部分のみかたの中に明暗があった。僕はコンピューターのトーンカーブで　明るい部分だけぬきとったりするので　自然にそういう部分にふれていたし，意識してみるのもおもしろいと思った。」

〔図版9〕
コロー『マントの橋』　濃くコピー

〔図版10〕
コロー『マントの橋』　線入り

〔図版11〕
コロー『青衣の女』の明暗資料

7月5日の「授業が分からなかった」とする感想（4名）の例を次に挙げる。

・「スライドでいろんな派の作品が見れてよかった。しかし，あまりくわしくないので，○○派といわれてもわからないので，もっと作品を示して「こういうのが○○派であると言ってくれればぼくとしても理解しやすかったと思います。」
・「何の前振れもなく“～イズム”という絵画の分類を出されても戸惑うばかりある。多分先生の中では筋が通った論理的な説明になっているのだろうが，今日の様な説明だと少し分かりづらい。キュビズムを解説するならキュビズムをやると言ってからやってくれると分かり易いかもしれません。」
・「今日の授業で，コローの絵をコピーして暗い絵を見ました。一番暗くコピーされた絵では，明暗がはっきりしていて，わかりやすかったです。今日のスライドは，口で流派の名前を言われても，あまり良くわからなかったので，もっとじっくり見れたら良かったと思いました。」

6月中旬に近代絵画の自律性を理解して貰うために印象派，野獣派（フォーヴィスム），立体派（キュビスム），表現派までの流派の特徴と画家名を記した資料を配布し説明し，印象派，野獣派，表現派の絵をスライドで映写し解説した。感想の大半は野獣派，表現派の絵に対しての「ああいう絵」は「嫌い，理解できない，色づかいが気持悪い，表現意図が分からない，知らなかった」というものであった。当回はそのスライド映写と解説の二度目の授業で，印象派，野獣派，表現派の復習と，超現実派（シュルレアリスム）までの流派の特徴を漠然とでも捉えて欲しい授業のねらいがあった。中学校，高等学校までの段階で授業時間の削減やスライドを含めた視聴覚教材の予算の乏しさが原因して基本的な鑑賞教養が学生に不足していることが予測できた。絵を専門に描き，技法・材料を研究している者であれば，コローが現場制作で，絵にする場所・天候・時間帯・季節を優れた感性により選んだこと，再現ではなく，構図や明暗等の造形性を工夫したことを絵画を見て実感できる。しかし，そのような体験・経験の蓄積を持たない学生を対象に教師が解説・説明するには，客観的に絵画を分析した資料を示さなければならない。その経験を踏まえた説明も学生の一部には直感的解釈を妨げる煩わしいものとして捉えられることがあり，他方で充分に時間を取って鑑賞をしたいと思う学生の要望がある。学生が見慣れない作品を理解し共感を示すには，教師が学生の感性の働きを読み取りそれに訴える映像や環境や条件を工夫することが「分かり易い授業」には必要となる。

美術専門の学生に対しては，現在，試行段階であるが，インターネットの鑑賞授業での活用や学生自身の検索・研究の発表を試みている。これらのことも授業方法の改善につながるであろう。しかし，多人数では機器の数が不足して無理である。

⑤　快・不快，好悪（好き嫌い），自由な解釈と作品享受について　ある学生の感想には，「その人が良いと思えば，その絵は名画であると思う。」，［絵の感じ方，認識の仕方に誤りとか正しいとかはあるのだろうか？」，「美術館のどんな名画も最初は誰かが良いと認めたから名画であるのではないか。」という記述が若干あり，「快・不快の感情と鑑賞の態度」を内容とする講義を次の授業で行なう必要性を生じさせた。

以下はその一例である。授業での応答での教師の断言の仕方への疑問と反発から感情的に書いたとも解釈すべき点もある。

・「作者が明暗の対比を考えながら描いていることを知った。絵の感じ方は人それぞれだと思うのですが　それでも認識の仕方にまちがいとか正しいとか　あるんでしょうか。自分が　これは好きな絵だな　と感じたら　それは自分にとって名画だと思うのですが。それでも　作者が　どういうことを注意して　何を思って描いたかなどを考えながら見る必要が必ずありますか。」（7月5日）

次回の授業でこの文を含めた幾つかの感想文を匿名に直してコピーして，カント『判断力批判』を引用しながら，他者と作品享受を共有するには，快・不快の感情や趣味判断に依存し過ぎるべきではないことを解説した。「私にとってこのワインは美味である。」と言うことは理由を述べずとも許されるが，「私にとって好ましい絵が名画である。」との主張は，鑑賞の方法が自己中心的である。主観的な解釈の自由は個人の枠内では尊重されるべきであるが，名画である理由の感性的認識に基づく論述が必要であること，それには主張や論争が伴うことを述べた。

発問や解説と教材研究の関係には厳密さが求められることと，アンケート等への対応を含めたフィードバック的な授業を実践した結果，学生の反応が良かったこと，鑑賞教育には必ず繰り返し，設問－回答・解説－感想・疑問－再解説・訂正－感想・疑問等のサイクルが用意される必要があること等を認識した。

中学校の美術の授業では，個別的な鑑賞ノートを提出させそれについてディスカッションやディベート法的指導が数多く行なわれているが，そのような授業方法を大学の授業においても導入する必要性があることが明らかになった。しかし，それとても現状のような大人数の受講の過密な教室内での実践には制約が加わる。

(2)　大学における名画鑑賞授業の改善方法について

鑑賞アンケートでは好まれる作品が多様な作品傾向に広範囲に分散的に分布していることこそが，個性豊かな青年期の傾向として歓迎すべきであるが，第1章において明らかなように，予想に反して極めて狭い範囲に好まれる作品が集中していた。

回答者の多くが，暗い表現や意味を秘めた絵を避けて，平明な絵を好み，絵に安息と視覚的快楽，楽しさ，明るさを求めている実態が明らかになった。肯定的に見れば極めて健康な鑑賞態度であり，批判的に見れば生活享楽的，受動的であると見ることができる。この鑑賞態度を脱してさらに発達するには，作品の造形性や表現を支える近代絵画の自律性

理念を理解し，個々の作品の造形的分析の授業を感性的に確実に認識し，また，イコノロジー（図像解釈学）の必要性のある絵への関心を持つ必要がある。

暗い表現の持つ芸術性を獲得した時，思春期の様々な悩みとある種の作品が共鳴することを実感することができよう。このように，名画鑑賞授業では広義の「美的なるもの」すなわち感性的認識の世界を拡張する作品に対する啓蒙教育を行なうことが不可欠である。しかしながら，大学生の場合には，美術鑑賞での人文科学的な分析や立論を率直に受容し，能力に応じて鑑賞能力を向上させる者，探求心を持つ者が圧倒的に多い中で，一部に，受験競争への嫌悪感から，絵画の鑑賞については「正答は無い」との誤解がある。絵画の造形的・意味内容の分析や説明を拒否するいわば「正答アレルギー」である。鑑賞教育拒否とも云える年代的・世代的な感受性，学習感が少数ながら増加していることは近年に目立つ傾向である。描画やデッサンにおいても知覚の恒常性に支配され，開発されずに留まった描画能力が非個性化傾向をもたらし，描画に劣等感を持っている学生が少なからず存在する。

結　論

鑑賞能力と美的教養の両者の発達は，序に触れたような三つの複合的な関係の上に成立すると思われる。換言すれば，美的対象と鑑賞者（享受者）との間を教育的関係において媒介するところの教師によって鑑賞（美的享受）能力の発達は促進される。また，鑑賞者（享受者）は主体性を持つ制作者でもある。「真の観賞とは同時に創るということでなければならない。観ることと創ることは同時にある。」（岡本太郎『青春ピカソ』1953新潮文庫，28頁）の言をまつまでもなく，創造行為・創作活動と作品享受は表裏一体の関係にあるという美学上の課題の上に保障されるべきである[2]。

鑑賞者の作品享受能力が発達すれば多様な価値観や視野が当然ながら拡がり，多様な美術表現理念が存在することを自覚するであろう。美術史上の流派の造形的特徴や芸術と社会との関係史を理解し，作品を通して作者の人間性，創造性に触れて共感したとき，鑑賞者の能動的で創造的な造形能力が刺激されて多元的な表現が可能になるであろう。

一般的に云えば，絵画鑑賞能力を獲得する以前の初期段階においては狭義の美や好悪（好き嫌い），快・不快に基づく作品評価や主題そのものへの感情移入に作品享受が支配され易く，また，視覚性優位のミメーシス（模倣）に凝らした技術を作品内容の重要事項と誤解し易い。そして，鑑賞能力・認識能力が発達すると，美的対象（作品）と自己の感情移入との区別がつくようになる。絵画の様式や技法，造形的な仕組み（組成），主題に隠された作者の意図・美意識を客観的に価値あるものと実感するようになる。同時にそれらの質の比較検討もできるようになり，作品の表現・表出内容と様式・形式を結びついたものとして認識することが可能となる。

M.J.ベンローズ著，尾崎彰宏・加藤雅之訳，『絵画の見方』（法政大学出版局1996）は副題として，「美的経験の認知発達」を挙げている[3]。以上に述べた鑑賞能力の段階説を裏付ける理論がこの書全体に見られる。パノフスキーがイコノロジー（図像解釈学）研究の美術史的専門性の立場から，イコロジー（図像学）より一歩進んだ鑑賞の在り方を論じていることは意義あるが，それとは視点が異なり，５段階の絵画鑑賞の発達段階を子どもたち

へのインタビューから人間形成との関わりで美術教育学的に考察している。

このように，絵画鑑賞の発達段階は描画の発達段階と同様に，成人であるという理由だけで自然に最終段階に到るわけではなく，絵画の見方が発達初期の数段階で停滞していおる場合もある。絵画作品を前に主客混同状態にある青年や成人の状況を改善すること，児童・生徒・学生が，造形性と表現力の多様な関係性に洞察力を以て気付くような鑑賞指導をすることが学校教育，社会教育において重要である。

ただし，児童・生徒・学生の主体性・能動性の発揮に到るには教師の持つ指導力，発達観，鑑賞教材研究，造形表現の経験，美術史観の深浅等が大きく反映する。言語と非言語リテラシーによるフィードバック的な授業を繰り返し，基礎的な造形能力と造形感覚を実技の表現活動で伸ばしながら，情報機器，美術館教育等の活用と並行して鑑賞能力を拡大する必要がある。

鑑賞教育実践を改善するには，鑑賞能力の発達，美的認識能力・美的経験の認知能力の発達過程を踏まえて，子どもたち，生徒，学生と教師との対話の中で人間形成を目的に行なわれる必要がある。

[注：引用文献]

1）H.リード著，植村鷹千代・水沢孝策訳『芸術による教育』美術出版社1959，pp.89-124参照。

2）竹内敏雄編修『美学事典』弘文堂1984，p.159参照。

3）マイケル，J.パーソンズ著，尾崎彰宏・加藤雅之訳『絵画の見方』法政大学出版局1996，pp.4-9参照。

[図版引用]

ボッティチェリ『ヴィーナスの誕生』，『西洋美術館』小学館，1999，pp.384-5

フェルメール『牛乳を注ぐ召使』，『同上書』p.684

モネ『散歩，日傘をさす女』，『現代世界の美術 1 MONET』集英社，1985，No.20

ムンク『叫び』，『現代世界の美術 2 MUNCH』集英社，1985，No.56

ピカソ『マリー・テレーズの肖像』，『おはなし名画シリーズ　ピカソ　絵本画集』博報堂出版，1999, No.56

松本竣介『水を飲む少年』，NHK盛岡放送局編『いわてART IN IWATE美術散歩』川口印刷，p.47

コロー『青衣の女』，Michel Laclotte et Jean-Pière Cuzin, *Le Louvre*, Scala Pub. Paris, 1990, p.121

コロー『マントの橋』，アルベルト・マルチニ編，富永惣一監修，『ファブリ名画集23 コロー』，平凡社，1970, pp.14-5